

農家と柑橘ソムリエという生き方

ニノファーム 代表 二宮新治



関西で働く中、宇和島で農業を継承することを思う

二宮新治さんは、高校卒業後関西でアパレル業界に就職したが、いつかは地元に戻って自営業をしたいという考えを持っていた。家業である農業の就農を検討し始めたころ、厳しい時代を知る両親からは就農を反対されたが、農業の可能性を直感的に感じ、反対を押し切って就農したとのこと。就農直後は月3万円の給料で何とかしのいでいたが、親やJAなどからの技術指導を受け、徐々に規模拡大して経営を確立。さらに、柑橘の文化面にも可能性を感じ、NPO法人設立につながるようになった。



ニノファームの柑橘

NPO法人柑橘ソムリエの理事長としての一面

二宮さんは、柑橘農家として活躍しつつ「NPO法人柑橘ソムリエ」の理事長として日々全国を回って柑橘の普及に努めている。「何か面白いことをしよう」という発想から地域農家と協力してNPO法人を2015年に設立し、10年以上継続されてきた。「口にすることは簡単だが、実際に継続することは難しい。」と語り、大盛況している講習会の裏側の苦労をうかがい知ることができる。参加者は老若男女幅広く、「みかん」というものが幅広く愛されていることを改めて感じているとのこと。



柑橘ソムリエ講習会で指導する二宮氏

これから新規就農を目指す方へ

皆様から自分が栽培したみかんを美味しいと言って頂けることには大変な喜びを感じます。また、若い時に直感した「農業はまだまだ可能性がある。農業は面白い」という考え方は、就農して20年経ついても変わりありません。これまで研修生を数名受け入れてきましたが、農業は目標設定を明確化することと横のつながりも大事になってきますので、楽しむ気持ちで就農していただければと思います。



リノベーションした倉庫

農家になったきっかけ	10年ほど関西で一般企業で働いていたが、農業の可能性を感じ親の農業を継承
栽培品種	温州みかん、ぽんかん、ブラッドオレンジ、なつみなど10品種以上
栽培面積	約250a (25mプール50面くらい)
農業歴	約20年